ルーサン栽培の奨め

豚肉は何故たかい？

原因は飼料代にある

消費者の立場からすると、豚肉はそうひんばんに食膳にのぼせるわけにいかないという。それほどに値だんが高いのだ。

ところが養豚家に言はせると決して有利な産業ではないという。

両者の言いぶんの喰い違うのは一体どうしてなのだろう。原因はどうやら餌代が高くつくためらしい。

ちょっと古い資料だが、昭和四十年度の統計によると、全国平均で豚一頭当り生産費のうち、飼料代が四九%七、つまり約半分を占めている。原因はここにあるのだ。

このままでは畜産業の振興はおぼつかない。何か策があるはずである。

その一ツにこういう手がある。すでに手をつけているむきもあるが、飼料作物を自給することによって生産コストを下げることである。

もうかりさえすれば、多頭飼育の意気ごみもあがって量産され、需給のバランスもとれるから消費者価額も安定する。したがって、いずれの家庭の食膳をも賑わすことになろうというものである。

ものは試し、まだ手をつけていないむきは飼料の自家生産にふみきっていただきたい。その自給飼料作物として考えられるものにルーサンがある。案外栽培しやすいのでそれについて述べて見よう。

豚1頭当り生産費(全国平均)(40年度)

豚代		6,180円	34.7%
豚債		8,851	49.7
素労		1,995	11.2
飼育		784	4.4
飼そ		17,810	100.0
計			

年度	販売価格	生産費	純益
40	18,388円	−17,810円 =	578円
39	19,013	−18,585 =	428

飼料作物アルファルファー(ルーサン)の栽培

ルーサンは飼料作物の中では寒さにも暑さにも強く、二〜三年の短年性牧草である。まめ科に属し根は直根、草型は直立型で刈取り作業や栽培管理がしやすくて、三月下旬から十一月中旬にかけて八回前後の刈取りができるので緑餌の常時供給には最適である。

飼料価値としては、生草の場合可消化純蛋白質が二%で可消化養分の総量は一五%もある。これを乾燥すると可消化蛋白質が一〇%五となり、可消化養分の総量は二四%六という極めて良質なもので、特に種豚などに必要な天然ビタミンA、E、Kなど脂溶性のビタミンが多量に含まれている。緑餌として毎日与えると脂肪肥りせず、種付成果も極めて良好で、出産頭数も多いので濃厚飼料の節約となる。

サーサンの年間青刈り給与が可能な日数は約二〇〇日であるから一日当り五kgを与えると一、〇〇〇kgとなる。ルーサンの飼料価値は四kgがフスマ一kgに相当するからフスマ換算で七、五〇〇円の節約となり、これを繁殖豚に一日四〜五kg与えれば濃厚飼料は三〜四割がた節約でき、乾草として冬期間の飼料に利用すれば自給度はさらに高くなるわけである。

なお、一頭当りの作付面積は一、五aぐらいが適当であるが、栽培のしかたなど詳しくは産業課へおとい合せ下さい。

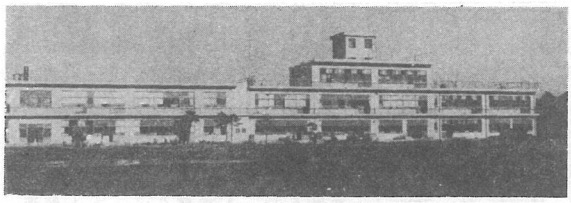
異は、戦前戦後の世相の変化をマザマザと見せられた感がする。

この新しい校舎は昭和三十八年度から起工して、現在第四期の工事が終ったところ、あとまだ五期、六期と工事は継続されることになっている。

第三期までは二階建の、教室を主にした建築であったが、四十二年度の工事は地上五階の高層建築で、人目をそば立たせる。もっとも四階五階は水道関係の設備をするもので、一般生徒の出入はさせないから、危険の心配は無用とのことである。

正面玄関は北側田んぼに面して設けられ、竣工の暁は県下一流の小学校と並べてもひけを取らない偉容をそなえた学校となるであろう。

写真は装をこらした横芝小新校舎



青年館続々と建設

長倉、曾根合を加え八館

青年館については町の条例で『青少年の健全育成および地域社会における福祉活動の促進のため、青少年を健全に育成することを目的とする団体、域住地民等の体育娯楽、研修集会等の場所を提供する』と規定して、建設の助成をして来たが、三十九年度には南川岸と於幾に、四十年度には本町と西、四十一年度には小堤と姥山にそれぞれ建設され、四十二年度には昨年末長倉と曾根合で竣工式を挙げたほか、古川でも建築準備が進められている。

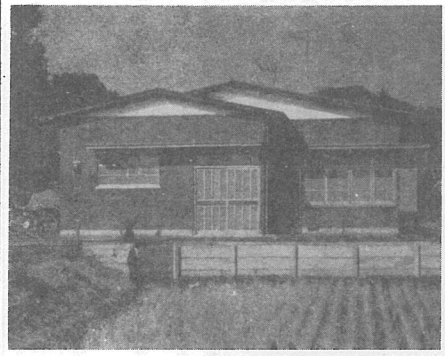
この青年館は県と町の補助金六十五万円に地元部落で同額位を醵出して建設するもので、青少年の健全育成を柱とした地域の福祉センター＝平たく言えば集会の場をつくるための必要度に応じて建設されつつあるもの。

各青年館は殆んど部落公民館的な存在として、青年層の研究、相談、懇親の会場、部落会議場、婦人会主婦たちの料理講習、頼母子講、老人クラブのレジャー懇談会場その他映画、講演などの会場として利用され、ある青年館などは年間一二九日延人員三千人に上る実績をあげている。

そのほか敷地内にバレーの設備をしている所もあり、卓球、野球、剣道などの運動用具を備えるなどそれぞれに設置目的にかなった活用に意を注いでいる。

五階建の鉄筋校舎

横芝小の新築進む



立派に竣功した長倉青年館

総武線の列車の窓から、町役場の反対側の田んぼ中に目をやると、突兀(とっこつ)と空中高くつき出た建物が見える。横芝小学校の新築鉄筋校舎である。

昭和初期の頃に建てられた古色蒼然たる老朽校舎は、今や最も近代的なビルを思はせる校舎に、生れかわりつつあるのである。

その古い校舎は、いま町の中堅として活躍しておられる人々が学んだ、そのかみの懐しい思い出のかずかずを秘めて、淡い冬の日ざしを浴びながら、やがては取りこわされて行くであろう日を待つものように、物思いにふけっているようでもある。

当時としては最も新しい様式をこらして建設されたものであろうが、星うつり歳かわって現在、すぐ隣りに建てられた近代建築の校舎と対照して、余りにも隔たりのある差

作品、演芸など多彩

盛会だった町民文化祭

横芝町青年団が主宰しての第一回横芝町民文化祭は、去る十二月十日午前十時から横芝中学校で開催され、町外からも多数の参会者があり盛会を極めた。

体育館の舞台では婦人会初め一般住民の素人演芸、老人ホーム、保育所児童の唄や踊りなどに続いて、青年団員の全国青年大会参加演劇「耕治クンバンザイ」の公演があった。

校庭では農機具の展示、操縦実演があり、また中古自動車の展示場にも人気が集まり数台の売上げがあった模様である。

一方各教室に展覧された写真、絵画、書道、華道、手工芸品などそれぞれに来会者の足をとどめさせ、特に刀剣古銭については、その道の精通者押尾氏の説明に聞き入りながら同好者の視線をあつめていた。中でも農作物コーナーは最も人気を拍し、松尾農改普及所長の賞状が贈られた作品などをまじえ、見ごとに出来た野菜類が飛ぶようにさばけ、またたく間に売りつくされる盛況であった。

斯うして第一回町民文化祭は成功裡に午後三時半終了した。

保護司

二名かわる

長倉の　伊藤貫一氏
中台の　伊藤唯一氏

去る十月から横芝町の保護司として新しく、長倉の伊藤貫一さんと中台の伊藤唯一さんの両名が委嘱された。これは亡くなられた八角幹雄さんと退任された吉岡常二さんの後任である。

保護司とは、以前は司法保護司と呼ばれたが、法務大臣から委嘱されて犯罪刑余者や犯罪のおそれのある者などの保護善導を、県の保護観察所の監督のもとで行なう、重要な役割を持つ方である。

現在横芝町では次の八名の方々が保護司になっている。

立会　実川弁之助
本郷　川島峯一郎
栗山　伊藤熊治郎
東町　林　山
本町　吉岡　たけ
上町　椎名小次郎
長倉　伊藤　貫一
中台　伊藤　唯一

三波ショー

盛会

去る十二月九日三波春夫のチャリティ・ショーが横芝中学校体育館で開催された。町婦人会の幹旋で横芝町内だけで二千数百枚の予約入場券が売さばかれ、中老年層の前人気は大したものであった。

当日は昼夜三回のショーに聴衆は早朝から詰めかけ、六千人の入りがあった由で、さすがは当代随一の人気歌手の貫録を十二分に見せた。

三波氏はかねてから社会福祉事業に深い理解と関心を持っていたが、ショーを終え横芝町社会福祉事業の発展充実を願って、基金として十万円を寄付された。

新年謹賀

横芝町役場

町長　伊藤　績夫
助役　平山　豊
収入役　土屋　直勝
総務課長　石井　富雄
企画課長　小沢　春光
建設課長　川島　忠
税務課長　田中　静
産業課長　本間　重寿
住民課長　小高　猶次
老人ホーム院長　小山　俊海
給食センター所長　押尾　光雄

横芝町農業委員会

会長　小池　知夫
副会長　小柳　奨
委員　河井　昇
実川　泰一
伊藤　博
川島　襄次
嘉瀬　惣一朗
伊藤　武好
五木田　一
桜井　敏雄
早川　登蔵
伊藤　敬一
菅　行雄
伊藤　厳
若梅　久謙
伊藤　幹雄
大木　寛治
斉藤　敏郎
伊野　一郎
伊藤